

国立民族学博物館創設40周年

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉

—多文化を生きる—



© 2011 CATTLEYA SRL・BABE FILMS SAS・FRANCE 2 CINÉMA

第28回上映会

2014年 **11月9日** [日] 13:30~16:00 (開場13:00)

場所 **国立民族学博物館 講堂** **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 **450名** 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布します。事前申込は不要です。

主催 **国立民族学博物館**

TERRAFERMA

2011年/イタリア=フランス合作/イタリア語・シチリア語・アムハラ語/
93分/日本語字幕付き

監督/エマヌエーレ・クリアレーゼ

出演/フィリッポ・ブチッロ、ドナテッラ・フィノッキアーロ

司会 **鈴木 紀** (国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

解説 **宇田川妙子** (国立民族学博物館 民族社会研究部・准教授)

お問い合わせ **国立民族学博物館 広報企画室** 企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉 —多文化を生きる—

国立民族学博物館では、2009年秋から開始した機関研究〈包摂と自律の人間学〉のテーマにあわせて、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。第6期は〈多文化を生きる〉をキーワードに映画上映を展開していきます。今回は、イタリア南部の小さな島の、環境が変わりゆく貧しい漁村で、法律に反すると知りながら密入国者の親子を助けた一家の苦闘を通して、現代における移民・難民の問題を考えていきたいと思います。

第28回上映会

2014年11月9日(日) 13:30~16:00(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

海と大陸 TERRAFERMA

2011年/イタリア=フランス合作/イタリア語・シチリア語・アムハラ語/93分/日本語字幕付き

監督/エマヌエーレ・クリアレーゼ

出演/フィリッポ・ブチッロ ドナテッラ・フィノッキアーロ

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

解説 宇田川妙子 (国立民族学博物館 民族社会研究部・准教授)

映画解説

衰退する漁業から観光業に活路を見出す、南イタリアに浮かぶ小島を舞台に、漂着した密入国者の親子を匿うことになった、ある家族の葛藤を活写する陰影に富む人間ドラマ。ヴェネツィア国際映画祭で審査員特別賞を受賞したほか、イタリア国内外で数々の賞に輝いた。父親を亡くした二十歳の青年は、島の将来に悲観的で新天地での生活を望む母親と、昔気質の誇り高き漁師の祖父との間で、心揺れていた。そんなある日、夏の観光シーズンを迎えた島がリゾート客でにぎわう中、祖父と漁に出ている海で、アフリカから流れ着いた妊婦とその息子に遭遇してしまう。母子を家に連れ帰ったものの、彼らに手を差し伸べることも許されぬ法律や、その存在すら認めようとしぬ観光ムードに疑問を抱いた彼は、自身の進むべき道を模索していく。ままたらぬ現実と向き合いつつ、あとけなさを残す好青年が成長する姿から、人間本来の良心や寛容の力が頼もしく溢れ出す、瑞々しい名篇である。(映画評論家 服部香穂里)

イタリア人にとっての「不動の地」

地中海に突き出た半島、イタリア。その地理的特徴もあって、移民・移動はイタリアに様々な影響をもたらしてきた。現在、イタリア在住の外国人は約440万人、全人口の7.4%にあたる。その出身地は、アフリカ、東南アジア、ロシア、東欧、さらに中国からの移民も増え、地中海を渡ってくる不法移民の船が漂着する事件も頻発している。また、かつて多くの移民はイタリアを通過してドイツ等に向かったが、今ではイタリアに留まり、イタリア生まれの第2世代も多くなった。しかし、差別や確執も深刻化し、2002年には移民受入れ制限を強化する法律(通称ボッシ・フィーニ法)が作られ、人びとの移民に対する対応や感情は揺れ動いている。そしてもう一つ注目すべきは、イタリア人自身が19世紀後半以降、国内での南から北への移民、さらにはドイツ、アメリカ、オーストラリア等への移民を経験してきたことである。現在でもその動きは止まっていない。つまり移民は、イタリア人自身の問題でもあり、その意味でも、排除か包摂か、受け入れ側か移民側か、という単純な二分法では割り切れないのだ。本映画の原題 Terra Ferma の直訳は「不動の地」である。歴史的に、自分たちだけでなく「よそ者」を含む様々な人びとの往来と生活の場であり続けてきたイタリア。彼らにとって「不動の地」とはどこなのか、そこは「楽園」なのか…グローバル化が進む世界の一員として、日本の私たちも考えていく必要がある。(宇田川妙子)



© 2011 CATTLEYA SRL・BABE FILMS SAS・FRANCE 2 CINÉMA

展示場ミニレクチャー 11月9日上映当日 11:30~12:00(予定)

ヨーロッパ展示場の「変動するヨーロッパ」セクションにて、宇田川妙子(本館准教授)が、本作品鑑賞の参考となるヨーロッパと移民についての解説をおこないます。[要展示観覧券/申込不要]

「包摂と自律の人間学

—多文化を生きる人々の映画を見る—

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国内外を問わず自分の故郷を離れて異郷に暮らす時、私たちは必ずマイノリティ(少数者)になります。そこが安住の地となるか否かは、周囲の人々が私たちをどのように包摂するか、そして私たち自身がどれだけ自律しているかにかかっています。隣人から暖かく迎えられ、自分に自信が持てると、居心地が良いものです。ところがその安堵感は、些細なうわさや事件、予期せぬ災害や不景気などをきっかけに、暗転することもあります。社会のストレスはしばしば、少数者に向けられるからです。このような緊張感は、〈移民〉や〈外国人労働者〉など、多文化環境に生きる人々を描く映画からうかがい知ることができます。まずは少数者の目線になって、その境遇を実感してみましょう。次に多数者の目線から、少数者の葛藤を眺めてください。そうすれば映画を見終わってみんなくを出た途端、慣れ親しんだ私たちの日常生活が少し違って見えてくるかもしれません。

ご利用案内

*国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館の愛称です。

観覧料

一般 420円/高校・大学生 250円/小中学生 110円

*特別展の観覧料は別に定めています。

*観覧料割引についてはホームページをご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車、徒歩約15分

*自然文化園各ゲート脇の券売機でみんなくの観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車、徒歩約15分

*「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス

(近鉄バス) (阪大本部前行き) 阪急茨木駅から約20分

JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約13分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。

下車、徒歩約5分

●乗用車

駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。

最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通ください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00)
FAX.06-6875-0401
http://www.minpaku.ac.jp/
公式Facebook http://www.facebook.com/MINPAKU.official

次回作品

もうひとりの息子

Le fils de l'Autre

2015年2月28日(土)

2012年/フランス映画

フランス語・ヘブライ語・アラビア語・英語

101分/日本語字幕付き

監督/ローヌ・レヴィ

主演/エマニュエル・ドゥヴォス

パスカール・エルベ



© Rapsodie Production/ Cité Films/ France 3 Cinéma/ Madeleine Films/ SoLo Films